

**令和 5 年度  
みどり高齢者支援総合センター・高齢者みまもり相談室  
事業計画**

**第 8 期最終目標**

目指すべき将来像：「お互い様で暮らす」まちづくりを目指す  
 ○自分のことも人のことも大切にできる地域として、意志決定支援や役割を持つことが広まり、浸透している。  
 ○生活ニーズを充足するために、住民、専門職、関係機関、企業等、多様な主体がつながり、地域づくりに取り組む  
 しゅみができる。

人口	高齢者人口	高齢化率	後期高齢者人口	高齢者人口に対する 後期高齢者人口
54,288 人	7,816 人	14.4%	3,992 人	51.1%

令和 5 年 2 月現在

**5 年度の到達点**

- ・8 期まとめの時期と重なる。どの事業においても PDCA サイクルのもと成果を確実に出している。
- ・その中で 9 期に向け、共生社会を意識し事業にあたり次期の事業計画に今期の目標達成状況とのつながりができている。
- ・町づくりについて、隣近所での声かけ、仲間づくりが介護予防の場づくりに発展していく働きかけを行い、介護予防拠点が各町会にできている。

<全センター・相談室共通業務>

**1 総合相談支援**

5 年度の 取組の視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合相談機関が圏域の身近にある事の周知を広め、利用・活用がされ、高齢者及びその家族等の支援行う。</li> <li>・1 回の面接での解決を急がず、寄り添い型、伴走型の姿勢をとり自己決定支援を行う。</li> </ul>	
結果	新規相談件数 ○件（前年度 ○件）	継続相談件数 ○件（前年度 ○件）
次年度以降の 取組の方向性		

**2 権利擁護**

5 年度の 取組の視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者、家族、専門職に向けて人生会議（ACP）を普及啓発し、当事者の取組みを支援する。</li> <li>・関係機関と連携し、チームによる本人の意思決定支援、重層的包括的支援を行う。</li> </ul>	
結果	虐待防止ネットワーク（研修、講座等） ○件 （前年度 ○件）	権利擁護相談（虐待相談含む）件数 ○件 （前年度 ○件）
次年度以降の 取組の方向性		

### 3 包括的・継続的ケアマネジメント支援

5年度の 取組の視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民の生活変化に応じ、家族支援も含め包括的・継続的ケアマネジメントの実践が行えるよう専門職支援を行う。</li> <li>・地域ケア個別会議から発見した地域課題に取り組む。</li> <li>・圏域の介護支援専門員と協働し作成した BCP を活用し、介護保険事業所とのネットワークの強化を図る。</li> </ul>	
結果	ケアマネジャー向け研修 ○回（前年度 ○回）	事例検討会 ○件（前年度 ○件）
次年度以降の 取組の方向性		

### 4 介護予防支援・介護予防ケアマネジメント

5年度の 取組の視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立支援や重度化予防、尊厳の保持を意識したプラン作成</li> <li>・地域ケア個別会議の重要性と啓発を図り必要な資源開発に取り組む。</li> <li>・利用が介護予防、健康の維持・増進に向け主体的に取り組む支援とマネジメントを行う。</li> </ul>	
結果	プラン件数（自己作成） ○件（前年度 ○件）	プラン件数（委託） ○件（前年度 ○件）
次年度以降の 取組の方向性		

### 5 認知症支援

5年度の 取組の視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の「人」と家族を一体的に支援できる仕組み作りのために、家族会の充実と深化を図る。（チームオレンジに向けて）</li> <li>・認知症初期の発見と適切な医療・介護に繋がるよう「初期集中支援チーム」の充実を目指す。</li> <li>・医療と介護など多職種が協働していくための普及啓発を進める。</li> <li>・「共生社会」を目指し、区民向けの認知症普及を計画する。</li> </ul>	
結果	認知症サポーター数 ○人（前年度 ○人）	家族介護者教室 ○回（前年度 ○回）
次年度以降の 取組の方向性		

## 6 地域ケア会議

5年度の 取組の視点	・個別ケア会議を定例実施し包括的・継続的ケアマネジメント支援を行う他、発見された地域課題について圏域の居宅介護支援事業所と共に取り組む。	
結果	地域ケア個別会議 ○回（前年度 ○回）	地域ケア推進会議 ○回（前年度 ○回）
次年度以降の 取組の方向性		

## 7 生活支援体制整備事業

5年度の 取組の視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談業務や地域の実態把握、地域ケア会議等を通じて、高齢者の地域生活継続のために必要な社会資源情報を収集し、地域課題を分析し整理する。</li> <li>・地域との信頼関係を深め、地域活動の意向を把握し互助を支援する。また、適宜、分析整理した地域課題を住民や関係機関に働きかけ、自助・互助強化に向けて取り組む。</li> <li>・様々な関係機関や地域人材と協働し、地域活動の人材開発や活動支援の仕組みをつくる。（地域活動の学び舎）</li> </ul>	
結果	交流・通いの場 ○件（前年度 ○件）	
次年度以降の 取組の方向性		

## 8 見守りネットワーク事業

5年度の 取組の視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通年の実態把握（熱中症予防訪問、医療未受診者、高齢者みまもり相談室（以下「相談室」という）未把握）により孤立予防のネットワーク強化を図る。また、見守りの担い手等の発掘を行う。</li> <li>・既存の団体の活動状況を把握し連携を深め地域力の向上を働きかけ、見守りネットワークを充実させる。</li> </ul>	
結果	実態把握 ○件（前年度 ○件）	安否確認 ○件（前年度 ○件）
次年度以降の 取組の方向性		

## <圏域別地域包括ケア計画の取組>

※事業ごとに記載している施策の方向性の数字は、以下を示している。

- |                              |             |
|------------------------------|-------------|
| 1… 見守り、配食、買い物など、多様な日常生活の充実   | 2… 介護予防の推進  |
| 3… 介護サービスの充実                 | 4… 医療との連携強化 |
| 5… 高齢者になっても住み続けることのできる住まいの確保 |             |

事業名 <b>私が私であるために</b>		施策の方向性：1, 2, 3, 4
背景となる課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ケア会議での検討から、「その人らしさ」「老いの保障」等の人の尊厳について取組課題が出された。生活面では栄養管理や「食べる」ことを含む自己の健康管理、生活への取組、本人の意欲等、介護を予防する視点が重要である。また、家族の関わりや役割、孤立やパワーレス等、虐待の早期発見や自己決定支援、人生会議（ACP）等の専門職を含む社会資源のネットワークやシステムに関する課題も挙げられている。</li> <li>・特に、ケアマネジメントのアセスメントにおいては、サービスを入れることを目的とするのではなく、家族関係や生活歴、発達段階にも焦点を当て、ジェノグラム（家系図）やエコマップ等を用いて、本人の強みやレジリエント（回復力・適応力・柔軟性）等を活用したマネジメント力が求められている。</li> </ul>	
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談業務で「私の思い手帳」を活用し、高齢者・家族双方の老いの受容や対話を支援する。</li> <li>・高齢者向け人生会議（ACP）セミナーを企業や地域と連携開催し、普及啓発を行う。</li> <li>・専門職へ人生会議（ACP）の実践を働きかける。特にケアマネジメント力の向上支援としてケアマネジャーへの教育機能を高め、圏域の主任ケアマネジャーや管理者と協働して研修・事例検討会を開催し、ケアマネジメントの実践支援に取り組む。</li> </ul>	
4年度事業実績 （アウトプット及び現時点で判明しているアウトカム） R5.1.31日段階	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケアマネジャー向け権利擁護勉強会 5/17 24人</li> <li>・権利擁護セミナー10/28 自分の心づもりを大切にする人生会議/もしバナゲーム体験）6名</li> <li>・自主グループ向け ACP ミニ講座（10～12月 7団体各2回 計14回 対象者約100名）</li> </ul>	
5年度の取り組みの指標と方向性	投入資源 （人・場所等必要な資源）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者支援総合センター職員、地域住民、自主グループ参加者、介護事業者</li> <li>・アウトピアみどり苑4F</li> <li>・窓口 de 終活（企業との連携）</li> </ul>
	5年度活動計画 （アウトプットの目標）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「私の思い手帳」の配布と活用した住民の意見を収集する</li> <li>・人生会議（ACP）について広く地域に普及啓発セミナーを関係者と協働して実施する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>① ケアマネジャー等専門職向け ② 窓口 de 終活（企業と連携した住民向けセミナー）</li> </ul> </li> <li>・地域への出前講座（町会、老人会、サロン、介護事業者向け）</li> </ul>
	成果（アウトカム）を測る指標及び目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談業務での「私の思い手帳」配布件数、ACP について記入したり家族等と対話した事例や住民の意見のまとめ。</li> <li>・セミナーや講座の回数 ・地域への出前講座の回数 ・参加者の意見のまとめ、課題。</li> </ul>

実施結果	活動の実績 (アウトプット)	
	成果(アウトカム目標の達成状況)	

<b>事業名 暮らしの道しるべプロジェクト</b>		施策の方向性：1, 2
背景となる課題	利便性が高くプライバシーに配慮した集合住宅が次々建設されており、転出入や地元であっても他地域に通勤する人が多いため、住民同士のつながりが求められている。退職後、地域交流の場や活動を知りたい、参加するきっかけを必要としている高齢者がいる。また、地域活動団体やグループは、担い手が高齢化し、おせっかいや助け合い文化の継承が必要になっている。	
事業内容	・地域活動について「知る、出会う、活動する」人材開発を目的とした「地域活動の学び舎」を企画し、関係機関やすでに活動している住民の協力を得て実施する。企画の中で、既存の団体を紹介し身近な地域で貢献する活動の関心を高める。参加者の意向に寄り添い、参加者が主体的にやりたい活動を実現できるよう支援する。また、I期からの参加者による組織を立ち上げ、学び舎に集う高齢者の相互交流及び、地域人材との交流を図り、担い手人材ネットワークを支援する。	
4年度事業実績 (アウトプット及び現時点で判明しているアウトカム) R5.1.31日段階	・地域活動の学び舎Ⅱ期：対象者10名。I期生サポーター1名。8回実施。 学び舎の活動の中で、地元の小地域福祉活動3団体につながり4名担い手として活動を開始。サロンの手伝い、放課後児童見守り、高齢者見守りサポーターとして活動を始めた。その他、社協のハートラインボランティアに4名登録しハートライン活動とともに、ボランティア保険加入したことで、小規模多機能デイのボランティアを開始。介護予防サポーター、地域の老人クラブに加入し手伝い候補。ヨガサークル役員として活動スタート。(最終的に圏域を1次2次3次と設定し活動を見える化する)	
5年度の取り組みの指標と方向性	投入資源 (人・場所等必要な資源)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・包括、相談室、アウトピアみどり苑</li> <li>・社会福祉協議会</li> <li>・墨田区：高齢者福祉課、地域活動推進課</li> <li>・民生委員、町会・自治会、老人クラブ、小地域福祉活動・ふれあいサロン</li> <li>・介護予防自主グループ、介護予防リーダー・サポーター</li> <li>・協力事業所</li> </ul>
	5年度活動計画 (アウトプットの目標)	「地域活動の学び舎(講座、参加者同士の対話、見学、体験、交流)」を年9回行う。

	成果（アウトカム）を測る指標及び目標	・学び舎Ⅰ～Ⅲ期参加者個々の地域活動および、交流によって強化・創出された活動や、地域人材を見える化する。
実施結果	活動の実績（アウトプット）	
	成果（アウトカム目標）の達成状況	

<b>事業名 笑顔でフレイル予防</b>		施策の方向性：2
背景となる課題	地域ケア個別会議や総合相談支援分析において早期に介護予防に取り組むこと、その意識の普及啓発が課題としてあがった。自身＝自助、仲間＝互助へ働きかけ、身近な場所で馴染みの関係が作られることも継続支援には重要である。場所、指導者、リーダーという人材の活用も課題である。	
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会の変化（コロナ禍での感染対策等）に適応しながら、自主グループが活動を継続できるように体力測定会や活動状況の把握などを通して必要な支援を継続していく。</li> <li>・今までの立ち上げ事例を参考に「みどり圏域自主グループ立ち上げ支援マニュアル」を作成する。地域リハビリテーション活動支援事業を活用し、公園等を拠点とした自主グループを更に増やす。</li> <li>・地域住民が体力測定会に自発的に参加することをきっかけに自主グループが立ち上がり、人と人とながらで地域の活動も盛んになり、担い手の育成にもつながる。</li> <li>・みどりシニア大学（40代～70代向けの介護予防・フレイル予防講座）の開講に向け、圏域のニーズを把握し、「暮らしの道しるべプロジェクト」と連動しながら、関係機関・多職種で住民向けのプログラムについての協議の場を設ける。</li> </ul>	
4年度事業実績（アウトプット及び現時点で判明しているアウトカム） R5.1.31日段階	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍において自主グループが活動継続できるよう介護予防サポーター・リーダーとの関係構築し継続支援できた。また、体力測定会を実施し高齢者自身が現状把握し、活動継続の必要性を再確認、継続できている。また、新しい担い手が増え活動に携わっている。</li> <li>・体力測定会をきっかけとした自主化支援では6/7は自主グループが立ち上がらなかったが、3/9の体力測定会では反省を生かし自主化への支援を実施予定</li> <li>・みどりシニア大学改めみどり健康カレッジを5回シリーズで実施。18名登録、平均15名が参加。最終日にはみどり圏域の散歩・ウォーキングマップ作成し、次年度以降も継続して取り組む計画ができている。</li> </ul>	



5年度 の 取 組 み の 指 標 と 方 向 性	投入資源 (人・場所等 必要な資 源)	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存の自主グループ、介護予防サポーター・リーダー、町会・老人クラブ、民生委員、地域リハビリテーション活動支援事業のリハビリ専門職、関係機関のリハビリ専門職、圏域のケアマネジャー等</li> <li>圏域の公園、集会所、町会会館、緑小学校分室、みどりコミュニティセンター等</li> </ul>
	5年度活動 計画(アウト プットの目 標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存の自主グループが休止することなく活動継続できる(15~16グループ)</li> <li>公園で実施してきた自主化支援であるが、コロナ禍が落ち着いてきたため、屋内でも自主グループが立ち上がる(2つ)</li> <li>みどり健康カレッジを2クール実施し、みどり圏域独自の散歩・ウォーキングマップができ、地域住民が活用できる。(両国・緑・千歳・立川・菊川・江東橋)</li> </ul>
	成果(アウト カム)を測る 指標及び目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存の自主グループが活動継続(16グループ ※通いの場の中で自主グループとして活動しているものでみどり包括が継続支援しているグループ)</li> <li>屋内外問わず自主グループが2つ立ち上がり活動継続できる</li> <li>みどり圏域の散歩・ウォーキングマップ(両国・緑・千歳・立川・菊川・江東橋)を作成できる</li> </ul>
実 施 結 果	活動の実績 (アウトプ ット)	
	成果(アウト カム目標の 達成状況)	

<b>事業名 よろしく・こんにちは事業</b>		施策の方向性：1, 2, 5
背景となる課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>集合住宅の建設と共に、住民が増加し、高齢の親を区外等から呼び寄せ新たに転入する高齢者が多い。このことから、町会や民生委員・児童委員は、町会・自治会への参加など新しい住民との関係づくりを課題として捉えている。また、オートロックマンションは、セキュリティ・安全面など利便性が大きい反面、町会の回覧板や、民生委員・児童委員や小地域福祉活動などの戸別訪問による情報が届きにくく、地域から孤立しやすい。</li> </ul>	
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>アウトリーチ(高齢者宅への訪問支援)の継続 転入や未把握の高齢者、訪問後年数が経過している高齢者が、相談室を知り活用できるように、計画的に訪問や手紙等で接触する。</li> <li>集合住宅(管理組合、管理会社・管理人)とのネットワーク強化 集合住宅に相談室の機能と役割の周知や、「みまもりだより」の掲示を積極的に働きかけ、地域からの孤立を防ぎ、情報が届くしくみづくりを継続する。住民同士が見守り合う意識を高め、お互いの変化に気づくための講座を働きかけ、連絡や相談ができる関係を構築・強化する。</li> </ul>	
4年度事業実績 (アウトプット及び 現時点で判明し ているアウトカム)	<p>①アウトリーチ 延べ2,099件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>5月~9月に熱中症予防訪問として73~77歳のひとり暮らし、高齢者のみ世帯を訪問。1,442件。</li> <li>区民異動者リストをもとに転入者、区内異動者への訪問。</li> </ul>	

R5.1.31 日段階		<ul style="list-style-type: none"> <li>・孤立死ケースの分析より、75 歳以上のひとり暮らし世帯への実態把握訪問を令和 5 年度継続。</li> <li>②集合住宅でのみまもりだより掲示 31 か所</li> <li>・毎月のみまもりだよりの他、熱中症予防のポスター、体力測定会等各事業のチラシ等の掲示。</li> <li>③見守り講座の実施</li> <li>・マンションでの見守り講座について 1 件調整中。3 月実施予定。</li> </ul>
5 年度の取り組みの指標と方向性	投入資源 (人・場所等必要な資源)	見守りネットワークを担う民生委員、町会、老人クラブ、サロン及び関係機関と見守り協力員 生活支援コーディネーターが開発した地域ボランティアの活用 介護予防担当が支援をした自主グループや既存のグループ
	5 年度活動計画 (アウトプットの目標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みまもりだよりの活用</li> <li>・区民異動者リストを活用し民生委員・児童委員と情報共有、転入者へは訪問。不在時にはみまもりだよりを投函し周知</li> <li>・集合住宅（管理組合・管理会社・管理人）とのネットワークを図り、みまもり講座等の出前講座の提案を引き続き行っていく</li> <li>・見守り活動報告会</li> </ul>
	成果（アウトカム）を測る指標及び目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みまもりだより配布の新規数、活用の内容</li> <li>・民生委員・児童委員と地域住民情報共有頻度</li> <li>・地域へ講座等の普及、実施件数</li> </ul>
実施結果	活動の実績 (アウトプット)	
	成果（アウトカム目標の達成状況）	